

2024年度 事業計画書

公益財団法人 日本国際医学協会

2023年12月7日

1、国際治療談話会例会開催

当協会の起源である医学談話会は、初代理事長故石橋長英により、医師卒後教育の推進を目的に大正14年に発足した。昭和30年以降は国際治療談話会と改称され、各専門家による最新医学の知見が数多く講演され現在に至る。また、昭和43年から始まった医歯薬以外の名士による「感想」は当協会独自の講演であり、医療に携わる人は病める人と向き合う上で、医歯薬以外の幅広い見識が求められるという創立者の理念に基づいている。国際治療談話会は、医師のみならず医療関係者に対する生涯にわたる総合医学教育の場として定着しており、当年度も例会を1, 3, 5, 7, 9月の年5回開催する。開催形式は、1, 5, 9月をWEB講演のみ、3, 7月をリアルとWEB両方のハイブリッド講演で予定する。なお、リアル講演は今年度より学士会館から紀尾井フォーラムに場所を移したが、来年度もこれを継続する。

2、第63回国際治療談話会総会開催

本総会は昭和36年より毎年1回11月に開催し、例会同様に総合医学教育を実践するだけでなく、医学を通じた国際交流に寄与するため、随時海外の医学者を招待し最新知見を取り上げる。総会においても医歯薬以外の名士による「感想」講演があり、講演会終了後の懇親会は国際医学交流並びに会員相互の親睦、情報交換の場となる。また、平成14年度からは創立者石橋長英の名を冠し、石橋記念講演を開催している。これは、日本で活躍中の海外からの若手医学研究者を奨励する医学講演であり、国際医学交流の普及に貢献するが、コロナ禍で中断されており再開を予定する。開催形式は、リアルとWEB両方のハイブリッド講演で予定する。

3、国際交流並びに医学情報交換

医師生涯教育に並んで当協会の主要な事業に国際医学交流がある。国際医学交流は伝統的に独国との間で盛んに行われ、過去に多くの医師や研究者が当財団を通じて交流を果たしている。また、これらの交流は市民まで広がり、栃木県の下野市（旧石橋町）とディーツヘルツタール（旧シュタインブリュッケン）、群馬県の草津町とビーティヒハイムビッシンゲンのように市姉妹都市締結にまで至った歴史がある。他にもレムゴ、カールスルーエ、フライブルクなど多くの市町村やドイツの主要な大学・医療機関と医学交流の歴史があり、国際親善の推進を図ってきた。コロナ禍での活動は制約が多いが、来年度も適時これらの市町村を通じて医学・文化交流による国際親善の推進をはかる。また、下記の配信により、医学情報を当財団から各所に発信する。

4、例会、総会会報配信

例会および総会の講演抄録をインターナショナル・メディカルニュース（IMN）としてホームページ上に一般公開され、会員はじめ関係者に定期的に配信されている。講演抄録は英訳もされ2023年末には520号に達するが、来年度もこれを

継続する。

5、例会、総会講演のオンデマンド放映

例会および総会の講演録画（アーカイブ）をオンデマンドで視聴できるようホームページに会員限定ページが設けられ、講演の見逃しも後から繰り返し視聴できる。今後もこのような会員特典を充実させ継続する。

6、会員入会依頼

維持会員については物故、高齢化等に伴う会員の自然減少に対し、役員、会員協力して積極的に新会員を勧誘する。賛助会員についても当財団の主旨に賛同し、協力を得られる企業の入会を依頼する。

7、協賛・寄付依頼

例年通り賛助会員並びに各方面に寄付を依頼し、所期の目的継続のために資する。

8、経費削減

事業費、管理費その他、諸経費の節減に努める。

9、その他

定款に基づく諸事業の継続と当財団の更なる発展に努める。

なお、2025 年は当財団創立 100 周年にあたり、これに向けて記念誌作製、寄付金募集などの準備をする。